



## 大規模稲作農家の、コスト低減・省力化の救世主となるか??

作付面積の増加にともない育苗ハウスの確保をどうしたらいいかという相談があります。今回のTAC通信ではこのことについて最近、注目されている技術の紹介をしてみたいと思います。

### 密 苗

育苗箱当たり 乾籾 210gほど播種	慣行の2倍
育苗期間 15~20日	慣行よりも短期間
葉齢 2.0~2.3、苗丈 10~12cmの苗	慣行より若苗
1株当たり 3~4本を正確に掻き取り・植え付け	慣行と作業は同じ
種子予措、育苗管理、移植後の管理は同じ	特殊な技術は不要

使用箱数を減らすことでコストを大幅に減らすことのできる

技術となっております！（収量と品質は慣行と同等の見込み）



★今年、JAこまちでも農家さんの協力のもと試験的にこの技術に取り組んでいます。右の写真は育苗ハウスの風景です。慣行と比較し、これだけスペースに余裕ができました。

★JAこまちでも本格的に試験されるのは今年からとなっており、下記のような点を懸念しています・・・

- 箱処理剤50g/1箱散布の効果？（慣行の1/2~1/3しか入らない）
- 移植の適期が短い？（老化・ムレ苗・大面積対応）
- 田植え同時除草剤が使えるのか？（薬害）
- 有効茎が早まるためその後の管理が変わるのでは？
- 品種ごとの適合性はどうか？

等々、この他にも実際に栽培をしていく中で気づく点や、問題が出てくると思っていますので今後も随時、密苗の情報を発信していきたいと思ひます。

苗箱数・育苗資材費・運搬・苗継ぎ時間が減る！（コスト削減）

育苗箱数	4,500箱 → 1,500箱	} <b>1/3</b>
育苗ハウス	9棟 → 3棟	
播種・苗運搬時間	195時間 → 65時間	
育苗資材費	145万円 → 67万円	} <b>1/2</b>

水稻 30ha 経営で、播種量を現行 100g/箱、密苗 300g/箱とした場合